

第1 9回日本・スペイン・シンポジウム 共同議長による最終報告書

第19回日本・スペイン・シンポジウムは、2017年10月19日、マラガ市において開催された。日本側から水上駐スペイン日本国大使及び山崎外務省外務審議官等が、スペイン側から、カストロ外務・協力省外交長官等が出席した。

今次シンポジウムは、「第四次産業革命とグローバル化 日本とスペインの対話」とのテーマの下で議論を行った。「グローバル化(の逆行?) 可変的な米国・EU・日本の関係の構造」、「デジタル化する経済 日本・スペインが考える未来とは」、「新技術の管理 人間らしさのための第四次産業革命の課題」、「仕事の未来と未来の仕事」をテーマとした個別セッションで両国の専門家が自由に意見交換を行った。

これらのセッションでは、急速に進む人口知能、IoT等の技術の発展とこれらの積極的な活用に取り組む現状を認識するとともに、これらの技術の発展に伴う変化が、人の働き方、交わり方、考え方、人のあり方にどのような影響を与えるのか、また、企業活動、教育、観光、労働・公共政策を含む分野にどのような影響を与えるのかについて、両国の共通の課題として、企業、大学等の専門家の立場から議論を行った。今次シンポジウムで議論されたテーマは、両国に共通する課題であるとともに、両国の更に力強い経済成長及び社会発展に向けた新たな機会を提供するものでもある。今回のシンポジウムでの議論を踏まえ、新たな時代に合った社会・経済のあり方に関する議論が両国間で更に進み、互いの経験及び知識が積み重なっていくことを期待する。

共同議長として、最近の二国間関係の進呈を振り返りつつ、今後の両国関係を展望する。

<政治>

両国からのシンポジウム参加者は、本年4月に実施され訪問中に7件の文書が署名されたたフェリペ6世国王王妃両陛下の国賓訪日が二国間関係にとり大きな意義があった点を繰り返し強調した。今回のシンポジウムは、日本とスペインが外交関係樹立150周年を迎える準備を進める中で開催された。150周年の機会に二国間関係が更に進展することを希求する。まず、2013年の首脳間共同声明「平和、成長とイノベーションのためのパートナーシップ」の実施を総括し、政治・安全保障、経済・科学技術及び地球規模課題、更に文化・人的交流の各分

野において、両国間が戦略的パートナーシップを確認し強化する機会となることが期待される。

<経済>

両国間の貿易及び投資が拡大傾向にあることを歓迎する。2016年の貿易額が7,000億円(約54.5億ユーロ)を越え、世界経済危機後着実に増加している。両国企業間の協力の第三国協力にも広がることを期待する。本年、駐日スペイン商工会議所が開設され、両国の経済的つながりの更なる深化に期待したい。昨年10月にはイベリア航空による東京―マドリード間の直行便就航が実現し、また、本年5月には、日本政府観光局マドリード事務所が開設されたことを歓迎する。直行便の路線・頻度の増加により、両国の相互交流が更に進むことを期待する。

<科学技術>

科学技術に関する多岐にわたる分野での両国間の協力を大きな期待を寄せる。ラ・パルマ島におけるCTA望遠鏡の設置に関する協力が進展し、宇宙物理学分野での協力拡大に期待する。また、日本医療研究開発機構とスペイン科学技術庁の間の協力枠組みが整ったことを歓迎する。今後高度医療の分野における共同事業の実現に期待する。

<その他の交流>

フェリペ6世国王訪日時にワーキング・ホリデー制度に関する協定の署名が実現したことを高く評価する。この制度を通じて両国の次世代を担う若者の相互理解が更に促進されることを期待する。

両国間学術交流が更に発展すること及び両国の言語・文化に関する研究が促進されることを期待する。日本と特別な繋がりを持つサラマンカ大学が2018年に創立800周年を迎えることを強調する。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて両国間のスポーツ協力及び行政当局間交流が進むことを期待する。

今次シンポジウム閉会の際、第20回日本・スペイン・シンポジウムが山口市及び宇部市で行われることが発表された。次回シンポジウムが、幅広い分野における両国間の協力の強化に貢献することを期待する。